

教育実習の思い出

校 長 武井 正明

昨日から 26 日迄、教育実習期間となりました。

専門教科は保健体育。実習前の挨拶で、爽やかな笑顔が印象的な彼の指導教官は、全身筋肉の山田先生です。※「脳ミソが筋肉」ではありません。

この教育実習、私は今でもよく憶えています。小中両方行きました。

小学校で印象に残っているのは、母校である坂井輪小。担当は3年生。

毎日いろんな「事件」が起きる。それをベテラン女性の担任の先生が、実に見事に捌いていく。事件が起きれば起きるほど、子どもたちはそこから学び、成長していく。ともすると事件が起きないようにと、転ばぬ先の杖ばかり用意する、現代の風潮とは真逆であった。その時の学年部の先生方も温かかった。放課後最初の学年部会。実習生の歓迎に用意してくださった大阪屋の「流れ梅」。これを見ると、当時をふわっと思い出す。

実習最後の朝は、全校朝会で子どもたちが、声を振り絞って全力で歌う校歌を聴いて号泣。そして、学級でのお別れ会。涙を必死に堪えている子ども達の顔を見てまた号泣。この時、俺は絶対に先生になると決めた。忘れもしない大学3年の6月だ。

中学の実習は翌4年の6月巻西中。毎日放課後の野球部練習が記憶の大半を占める。生徒達と一緒に野球をやった。スライディングもした。とにかく楽しかった。

教科指導の先生は、実習生に関心がなかったのか「いい授業するね!!」としか言わなかった。これ幸いと放課後に体力を温存し、終学活直後「遅いぞ!!」準備万端、グラウンドで待っていたものだ。

最終日は教室で歌って別れた。曲はもちろん大好きな安全地帯「I love youからはじめよう」だった。歌っているうちに隣のクラスからも、どんどん生徒がやってきて収拾がつかなくなった。傍迷惑な実習生だった。その夜は、先生方が慰労会を開いて下さった。厳しいご指導を覚悟していたが「お前はイキがいい。小学校なんか行かないで中学に来いよ」と言ってもらい、中学も悪くないな、なんて上から目線で思ったものだ。

そして教員採用試験は、予定通り小学校で受けた。

しかし、図体を見込まれたのか、採用は中学だった。昔は稀にこんなことがあった。

3年経ったら小学校に戻してやるから、と言われ3年が経った。そしたら「小学校は余っている。中学校は足りない。もう3年待ってくれ」と言われ、さらに3年経った。

その3年後はもう、小学校の教師をしている自分がイメージできなくなっていた。

そして気づけば37年目である。人生はわからない。

母校吉中での教育実習は「若気の至り」でいい。あなたの教職への志は堅いと見た。失敗を怖れず4週間、どっぷりと吉田中学校の子どもたちに浸ってくれーい!!